

# 住まいいい新聞

大月人物伝 日韓の架け橋 高杉 暢也

日本ステンレス工業株式会社

発行/日本ステンレス工業株式会社

〒409-0617 山梨県大月市猿橋町殿上630-1

電話=0554-22-2500

FAX=0554-22-5234

Vol 145 2011

VOL. 143 2011

10

月号

高杉暢也は一九四二年九月三日、中国南京市で父、高杉直樹、母、文江の長男としてこの世に生を受けた。何故南京生まれかというと、第二次世界大戦の最中、父が日本語教師として、南京の日本人学校の教壇に立つていたからである。一九四五敗戦の色が濃くなつてきただ頃、父が戦地に召集された。直後の五月に母は女手一つ、着の身着のままで二歳半の彼と生後間もない妹をつれて、上海から長崎へ船で、長崎から大月までは汽車で帰還した。混乱と食糧事情の悪い状況で、妹は死んだも同然のようにして大月駒橋の実家にたどり着いたが、「幼くもお前が素直で気丈であつたら、救われたよ」と子どもの頃、母からその時の苦労話をよく聞かされたといふ。ちょっとでも間違えば、きっと「大地の子」になつていたリスクもあつたわけで、母の機転とご苦労に感謝するばかりであるといつもいつている。

慢強い性格に、家の清貧さもあいまって、派手な学生生活は好まなかつた。クラブ活動は文科系の「経営経済学会」に所属し、経営学を学んだ。

業、第一志望の会社には残念ながら入ることができず、新鋭の外資系会社ゼロックスに職を求めた富士ゼロックスは誕生四年目の会社で社員番号は丁度八百番、新しいがゆえに若い社員が多く活気にあふれていた。彼は経理部会計課の所属になつた。

を学び、国際性を身につけることができた。

帰国後は経理部総合計画課長として会社の予算（年度計画）作りと実績管理に従事し、本社のトップマネージメントをサポートした。一九八五年営業企画部長に昇進した。

一九九二年業績復活の経営戦略立案のために営業事業部長から経理部長へと古巣に引き戻された無駄を排除して、重点戦略に特化する選択と集中



二、経営の透明化 の韓国企業である。

三、「不易流行」の精神

四、「強い、面白い、優  
しい会社」

を作ろうと訴えた。

一度重なる現場廻りなど  
の手段により、韓国人社  
員との相互コミュニケーション  
を通じて経営を透  
明にし、労使和合（一休  
化）を図った。韓国固有  
の料理、豚の三枚肉（サ  
ンギョプサル）と焼酎で  
韓国人社員とノミニ  
ケーションを続けてきた

である。商品別に見れば  
アナログからデジタルへ  
単品商品からシステム商  
品への転換であり、マー  
ケットからみれば国内か  
ら海外（特にアジア）へ  
のシフトである。

ことから、中央日報新聞ははじめ地元のマスコミが「サンギョプサル会長」というニックネームで常用使相互コミュニケーションのモデルとして紹介。この労使和合（一体化）での会社再建の模様は、一九九九年八月十三日のＮＨＫスペシャル「隣の国はパートナー」で放映紹介された。

韓国の産業空洞化阻止のモデルを示すなどして韓国経済の発展に貢献、「最優秀外国企業」の評価を得、二〇〇六年に韓

の韓国企業である  
二、経営の透明化  
三、「不易流行」

国政府から大統領産業褒章を受章した。

以来、この「おまつり」は両国市民のボランティア活動として、毎年秋の開催に向けて両国の老若男女が口角泡を飛ばしながら「手作りのおまつり」を手がけている。こうして「「つなげよう東京とソウル、つなげよう未来へ」というスローガンのもと、東京・ソウルで同時に開催、成功裡に終えた。したがって今日、両国間にどんな悪天候があつて、推進役を果たしてい る。

も、常に進むべき方向を  
教えてくれる灯台の光の  
ような、日韓友好のシン

る。又、これまでの知見と相互の人脈をフルに活用し、民間外交官として両国の水先案内人の役割も果たしている。

二〇一〇年十月、ソウル市から日本駐在人としては初めての「名誉市民」の称号を贈られた。